

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 30 年 10 月 8 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3491900142		
法人名	医療法人社団 岡崎医院		
事業所名	ふれあいの家 えんや		
所在地	広島県三次市十日市西三丁目13番1号 (電話) 0824-65-0722		
自己評価作成日	平成30年9月14日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=3491900142-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成30年10月2日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

法人の理念である「その人らしく 生きる力に寄り添うチカラ」を念頭に、ご本人の思い・家族の意向を大切にその人らしく自立した生活が送って頂けるよう支援している。その方に合わせたケアを実践していくためにカンファレンスや振り返りを徹底することでケアの統一を図っている。法人のバックアップ体制により、事業所のみでのケアにとらわれず医師・看護師・リハビリ専門職・管理栄養士等の多職種との連携、また外部の関係機関とも助言や情報提供等関係づくりを行い、安心して生活して頂けるよう体制を整えている。また「地域とともに 地域のために」の基本理念のもと行事や外出、活動を通じて地域の方と交流を図り、関係を築いていくことで認知症に対する理解を深めて頂けるよう取り組んでいる。認知症の方々が地域で暮らしていく事ができるような町づくりを目指し、人とのつながりやお互いが支えあえる関係を大切に「地域と共に生きる」ということを実践している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホームで優れている点は食事、外出支援、看取りの考え方である。食事は3食手作りで提供されており、入居者と一緒に買い物に出かけ、下ごしらえから味噌汁作りまで入居者に合わせた役割がある。何よりも入居者が口を揃えて『おいしい』と食事を楽しんでおられる。外出支援に関しては、日々の水やりや散歩に加え、行事としてリンゴ狩りや、外出に行く等の非日常の生活においても力を入れている。日々の生活が充実しているからこそ、入居者が最後まで暮らしたいとの希望が多くあり、医療との連携の基、看取りが行える協力体制が築かれている。特に感じられる所は、入居者が皆笑顔で生活されており、雰囲気作りを始め、職員の介護のレベルの高さがうかがえる施設である。
--

自己 評価	外部 評価	項 目（ ひだまり ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	・法人理念を玄関に掲示している。 ・法人理念をケアの目標とし、チームで取り込んでいる。 ・取り組みのひとつとして、朝のミーティングでその日の利用者支援の目標としてスタッフ全員発表しケアを行っている。	玄関の見やすいところに理念を掲示してある。 朝礼の時に入居者一人ひとりの個別ケアに基づいた活動目標を立て、毎日が同じ生活にならないように個別ケアに取り組んでいる。皆で共有することで、統一したケアになるよう実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	・えんや夏祭りなどは地域の広報誌にチラシを入れ、地域の方へお知らせをしている。 ・とんどや盆踊り等、地域からの呼びかけも頂き参加も行っている。 ・常会や地域内の清掃活動に参加し、地域の一員としての役割も果たしている。	近所にお花を多く植えてある家があり日々の散歩を通じて交流が図られている。地域の町内会にも参加しているため、清掃活動や行事等を通してしっかりとお付き合いができており、地域に溶け込んだ事業所となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	・認知症アドバイザー、キャラバンメイトを配置して、地域の相談窓口として利用して頂けるようにしている。前年度は地域の方等を対象とした家族介護者教室を開催した。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	・会議録を作成し、運営推進会議の内容をすべての職員が確認できるようにしている。また、ミーティングを行い、改善点について話し合い、取り組みを行なっている。	運営推進会議では平日開催と言うこともあり、市の職員、包括職員、認知症家族の会の代表の参加もあり、会議の中では活発な意見交換が行われている。このたびの災害に対して改善したら良いことなども話し合い、職員のミーティングにおいて共有した事例もある。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	・運営推進会議（メンバーに市の担当者が在籍）や、2か月に1回地域密着型連絡会に出席し、市の担当者と意見交換や情報の提供を行なっている。	運営推進会議には、市の職員が必ず参加している。グループホームや小規模多機能の事業所が主体となり、地域密着型連絡会を2か月に1回開催し市の担当者も参加している。また、代表者が認知症アドバイザーの資格を有している為、依頼により認知症サポーター養成講座の講師などを務め、しっかりと連携が図られている。	

自己 評価	外部 評価	項 目（ ひだまり ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	・研修への参加、カンファレンスの実施を行い、理解と全職員でのケアの実施を行なっている。 ・玄関の施錠については夜間の防犯目的で夜6時から翌朝7時まで行っている。 ・入居者の居室の施錠についてはえんや周りが側溝や田んぼ、川があるため、周辺症状の悪化で命の危険につながるような状況がある場合は家族、主治医と検討し、ご家族ご本人の了承を得て安全確保の為行っており基本行動制限はしていない。	現在も過去にも身体拘束をした事はない。身体拘束をしないために外部の研修を受け年に2回施設でも研修会を実施している。身体拘束をすることが、認知症状の悪化につながるの思いを日々のケアの中で常に意識し職員に共有している。また、ご家族の中で身体拘束を希望される方がおられた時も入居の段階からしっかりと説明することで了承を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	・研修への参加により高齢者虐待に関して学ぶ機会を持っている。また、研修に参加した職員は施設内での研修を開催して他の職員に伝達をしている。 ・不適切なケアについて等、施設内でのアンケートを実施して、自分たちのケアを振り返る機会を作っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	・法人内で毎年研修に参加し、伝達研修を行なっている。 ・えんやではマニュアルの読み返しを各自行ない、分からないことがあれば、研修参加者に確認をするようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	・契約時には十分な時間を取って入居者や家族に説明を行い、不明な点が無い様に配慮している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	・介護保険更新時や状態に変化のあったとき等に、定期的なカンファレンスを実施してご家族のご意見や希望を頂いている。 ・入居者からは、日々の会話や行動の中から要望を汲み取ることで適時対応している。	日々の生活や行事は広報誌でお伝えするようにしている。面会時にお話を聞く事はもちろんだが、行事の時に意見を頂けるようにしている。意見の中では、行事に参加しているかいないかわからないと言われる方には写真と共にお手紙を書くようにしてお伝えしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目（ ひだまり ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	・毎朝のミーティングやカンファレンスで職員が意見を出しやすいように、日頃からコミュニケーションを図り意見を出し合えるよう行なっている。	日々の業務の中で、気になることがあるたびにカンファレンスを頻回に開催し、意見の共有を図るようにしている。その中では、入居者の状況に合わせ、早出や遅出の人数や時間帯を変更した事例もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	・定期的に個人面談を実施し、職員の思いや問題点を把握し、働きやすい職場環境に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	・代表者は職員一人ひとりのスキルを把握し、職員に応じた研修機会を設け支援を行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	・法人の代表は、多職種交流会や研修会を主催し、職員へも参加の機会を提供している。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	・利用前より面会・聞き取りを行い、入居に当たって本人の要望、不安、生活歴等を把握し安心できる関係作りに努めている。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ ひだまり ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	・入居前より家族と十分話し合いを行い、不安や要望などを伺い準備を行なっている。 ・担当職員を決めコミュニケーションを図り関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	・入居前のご本人ご家族からの情報収集を細かく行うことで必要とされる支援を見極め、他のサービスも含め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	・何事も利用者中心に行い、一緒に過ごしている。 ・利用者同士の支えあう場面や気遣いが引き出せるように支援をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	・面会や外出時の家族の役割を計画書に盛り込み、一緒に本人の力になれるよう関係を築いている。 ・職員は家族と本人がうまく関われるよう本人の状態を説明したり、認知症に対する理解、受け入れができるように相談に応じている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	・参加している集会や地元の行事の際には一緒に日程の確認を行い、付き添いや送迎をするなどの支援を行なっている。	入居者の馴染みの場所の状況を事前に把握し、その関係性を継続するために話し合い役割分担を行う事で皆で支援出来るようにしている。その中では、買い物や敬老会で馴染みの方にお会いするために話し合いなどの工夫をした事例もある。	

自己 評価	外部 評価	項 目（ ひだまり ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	・入居者同士の関係を把握し、お互いに声を掛け合って生活できる様ホールで過ごす際の席や、集団で出掛ける際のメンバーについて配慮したり、職員が間に入ることによって関係が築けるように支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	・サービス利用（契約）が終了する際にはご本人とご家族の困りごとや、今後の経過について気軽に相談していただけるよう、また支援できるよう声掛けを行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人一人の思いや希望が把握できるよう、話を聞いたり、ご本人のしぐさや表情から汲み取れるよう日々の関わりを大切にしている。	入居者一人ひとりに職員の担当を決めている。担当の職員が入居前からの生活を知ることによって馴染みの関係を築くことが出来ている。その中で、誕生日にはケーキ、花束等の同じお祝いではなく、その人その人に合ったお祝い方を工夫した事例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族や知人の方が面会に来られた時に、お話を伺ったり、ご本人との会話を通してその方の習慣や生活歴を把握しアセスメントに記入するようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の関わりの中でその方の心身の状態や、ペースに合わせた生活、活動を検討している。日々の様子や変化等ケア記録に記載し把握に務めている。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ ひだまり ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人がより良く暮らせるよう課題とケアのあり方について本人、ご家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意向を反映している。毎月モニタリングを実施し必要に応じてカンファレンスを行い、実行修正している。	入居者一人ひとりに担当者がおり、日々のケアの中からアセスメント、モニタリングを行い、ケアマネジャーと共有しながらその人に合ったケアプラン原案を作成している。それをもとに、カンファレンスを開催し現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々のケアの様子や、ケアの実践、結果、気づきなどを個別記録に記入し職員間で情報を共有している。カンファレンス時にも活用、参照している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対して法人全体でバックアップする体制をとっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	その方にとっての地域とは何かを考え、把握するように務めている。地域の行事に参加したり、地域のボランティアの方に協力頂き、施設内でも楽しんで頂ける催しや行事を行なっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご本人、ご家族などの希望を聞きながら、ご本人が希望されるかかりつけ医と事業所で連携をとり、治療や服薬、受診の支援を行なっている。眼科や歯科などの受診についても同様の対応をとっている。	かかりつけ医はほぼ法人の協力医院となっているが、入居時にかかりつけ医を選ぶよう説明を行っている。法人の医院が訪問診療を行っているので、毎日グループホームにはドクターが来られ、安心した医療が提供できている。また、眼科等の専門医には、その都度お連れし適切な医療が受けられるように支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目（ ひだまり ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	・法人の携帯電話を使用し24時間連絡が取れる体制を整えている。 ・状態の変化や内服等について相談ができる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院中に定期的な治療だけでなく医療機関に情報の提供をしたり、相談に乗っている。 ・家族と一緒に病状説明等に立会い、方針についても検討するようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	・入居時に看取りの対応について家族に説明をしている。 ・事業所でできる事を説明し利用者、家族の意向を重視した上で支援ができるように、カンファレンス等で主治医・看護師とも情報の共有を行なっている。	看取りを行うグループホームと言うことを地域でも認識されており医療と連携しながら最後まで馴染みの関係の中で過ごしていただけるような支援を行っている。そのため、入居時から看取りに対する説明をしっかりと行いご家族ともその都度状況に応じた話し合いを行いながらその人に合った支援を柔軟に行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	・定期的に研修を実施している。また救急や応急対応マニュアルを解りやすく作成し、全職員が対応できるように取り組んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害時に備えて避難場所、避難方法など必要な情報の共有や必要な物品の確認、補充を行っている。防災担当の職員を中心に災害時に備えて地域の消防団と連携を図ったり、災害発生時には法人全体で協力して避難できる体制をとっている。	この地域は、消防団の活動が活発であり運営推進会議に消防団の方にも参加していただいている。年に2回の防災訓練に消防団も一緒に参加している。このため、万が一の災害のときには地域で助けただけの安心した体制が築かれている。	

自己 評価	外部 評価	項 目（ ひだまり ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	・入居者や家族の立場に立って一人ひとりにあった声かけや接し方を心掛けている。会話や周りの環境にも気を配りプライバシーの確保に努めている。	入居者一人ひとりに合わせて、声かけの向きや声かけの仕方と、その人その人の呼び方も工夫している。入居者によっては、教室の入り口にのれんがかけられている人もおり、ドアを閉めておきたい方や、空けておきたい方等の生活状況に合わせた配慮がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	・会話や言葉だけでなく、表情やしぐさ等からも思いを汲み取り、利用者が選択、決定しやすいように支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	・起床、食事、入浴の時間等利用者の意向や体調に合わせて生活できるように支援している。 ・何事も本人のペースを大切にして、その人らしく暮らしていただけるように支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	・散髪の希望があれば地域の美容院に来ていただいている。 ・行きつけの美容院がある方は予約や送迎等の支援をしている。 ・利用者のこだわりに添えるように支援をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	・一人ひとりの嗜好については聞き取りや摂取状況により把握している。 ・食材の下ごしらえ、味付け、盛り付け、食器洗い、食器拭き等は入居者皆で協力しながら行なわれる。	調理担当の職員が各ユニットに1人おり、2ユニット分を3食手作りで作られている。職員も同じものを一緒に食べられており、アットホームな雰囲気の中、食事を楽しく食べられている。買い物も入居者と一緒に行き、食材の下ごしらえも、多くの入居者が役割を持ちながら担当している。	

自己 評価	外部 評価	項 目（ ひだまり ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人 ひとりの状態や力、習慣に応じた支 援をしている。	・入居者一人ひとりの好み、摂取量にあ わせ食事は提供できている。また、栄養 バランスや旬な物を取り入れたメニュー の工夫を行なっている。 ・水分量が少ない方は一回にたくさんの 量でなく合間に摂取できるようにしてい る。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態 や本人の力に応じた口腔ケアをして いる。	・食後はうがい、口腔ケアを促し義歯の ある方は毎晩ポリデントに浸けて洗浄し ている。 ・口腔ケアを行うことで誤嚥性肺炎の予 防にも努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、 習慣を活かして、トイレでの排 泄や排泄の自立に向けた支援を行っ ている。	・一人ひとりの排泄リズムをつかみ、そ の方に合わせた介助を行っている。 ・また、できることはご自分でしてい だくようにしている。	24時間シートに基づいて食事や排泄の記 録をとり生活のリズムを把握する事で自 立した生活を支援している。一人ひとり に合わせた福祉用具の利用を行い、その 都度カンファレンスを開いて日々のケア に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、 飲食物の工夫や運動への働きかけ 等、個々に応じた予防に取り組んで いる。	・その方に合わせた排便コントロールを 行ない、排便の確認をするようにしてい る。 ・センナ茶の提供や水分量、適度な運 動、腹部マッサージを行う等して排便を 促す取り組みをしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合 わせて入浴を楽しめるように、職員 の都合で曜日や時間帯を決めてしま わずに、個々に応じた入浴の支援を している。	・早く入りたい方、昼からゆっくり入 りたい方、その方その方に合わせゆっく りと気持ちよく入浴していただいている。	その人その人の生活リズムに合わせて、 毎日入浴する方もおられる。入浴方法に 関しても、今までの生活リズムをアセス メントし、その人に合わせた入浴スタイル になっている。職員が大切にしている 事は、マンツーマンでの入浴の時間を大 切にし、ゆっくりお話が出来る時間とな るよう心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目（ ひだまり ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	・ご本人の意向に沿った環境整備 を行い、居室でゆっくりと安心し て過ごす空間・寝間を作って夜間 安眠していただけるように取り組 んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目 的や副作用、用法や用量について 理解しており、服薬の支援と症状 の変化の確認に努めている。	・薬の目的や用法等の把握に努め 確実な服薬介助を行っている。ま た状態変化の早期発見に努めて いる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ご せるように、一人ひとりの生活歴 や力を活かした役割、嗜好品、楽 しみごと、気分転換等の支援をし ている。	・生活にメリハリがあるよう、一 人ひとりの力を活かせるような役 割を提供できるように取り組んで いる。また、行事があるとき等は 皆さんで楽しんでいただけるよう に支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそっ て、戸外に出かけられるよう支援 に努めている。また、普段は行け ないような場所でも、本人の希望 を把握し、家族や地域の人々と協 力しながら出かけられるように支 援している。	・天気の良い日には外の空気に触 れていただけるようドライブや散 歩、買い物など外出の機会を作る ようにしている。	散歩の好きな方とは一緒に出かけ 、季節を感じて頂く為に車椅子 の入居者にも庭の花の水やりや 、近所の花を見に行ったりと皆 に外出できる工夫がされている。 ユニット毎で入居者が全員参加 の外出行事も多くあり、リンゴ 狩りや外食等の非日常のリクレ ーションにもボランティアの力 を借りながら実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの 大切さを理解しており、一人ひと りの希望や力に応じて、お金を 所持したり使えるように支援して いる。	・預かり金など金銭は施設で管理 しているが、必要な時には必要 に応じてお金を使えるようにして いる。お財布を持たれている方 に関してはご自身で管理すること ができる様支援している		

自己 評価	外部 評価	項 目（ ひだまり ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	・本人が希望された場合、速やかに電話が使えるように対応している。 ・郵便や荷物が届いた時は必ず本人に手渡し、職員と一緒に確認を行なっている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ホールの窓は大きく中庭よく見える開放感のある設計となっている。玄関や各テーブルには入居者が育てられた花などを飾り季節を感じて頂けるようにしている。温度や湿度の調整も行なっている。	居心地の良い共用空間づくりのためにソファがリビングや廊下等の所々に設置しており、いつでも好きなところで休めるようになっている。壁には手作りの壁画や、カーブの写真が多く飾られ、居心地が良くなる工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	・館内のところどころにソファやイスを配置しており、面会者とゆっくり過ごせたり、自由に好きなところで過ごせるようにしている。 ・クッションなども配備し希望者には安楽に座っていただけるように配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・居室には使い慣れた小物や家具を自由に置いていただいている。 ・入居時には、持ってこられるものの配置等をご本人、ご家族と相談しながら部屋作りを行なっている。 ・掃除方法や配置等も入居者と相談しながら行なっている。	ベッドやカーテンの他、畳等の希望があれば床に敷き詰める等の支援も行っている。入居者によっては馴染みのタンスやご家族の写真を壁に貼っており、本人が居心地良く過ごせるような工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	・居室、トイレ、風呂場などの場所が分かりやすいように本人のお好きな暖簾や表札を掛けている。 ・館内の目に付くところに日めくり、月毎のカレンダーを設置し日付がわかるようにしている。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ こもれば ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり，管理者と職員は，その理念を共有して実践につなげている。	・法人理念を玄関に掲示し事務所デスクにも配置、ミーティングにおいてケアが実践できているか確認を行なっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう，事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	・行事には地域の方へ参加の呼びかけを行なっている。 ・ご利用者も地域の行事（とんど・夏祭り等）へ参加したり、買い物等外出することで地域の方との交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は，実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を，地域の人々に向けて活かしている。	・認知症アドバイザーやキャラバンメイトを配置して、地域の相談窓口として、利用いただけるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では，利用者やサービスの実際，評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い，そこでの意見をサービス向上に活かしている。	・会議の内容については，全ての職員が把握できるように書面で確認を行なっている。 ・意見については，ミーティングにて改善の取り組みを行なっている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り，事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら，協力関係を築くように取組んでいる。	・運営推進会議に市の職員が在籍されており、情報提供を行なったりアドバイスを頂き協力関係を持っている。また地域密着型連絡会においても市の担当者の方と情報交換、共有を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目(こもれば)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	・身体拘束委員会を設置し現状の把握や日々の振り返り等定期的に話し合い運営推進会議で報告している。 ・外部の研修に参加し、研修の内容について伝達研修を施設内で行い、情報共有を行なっている。 ・夜勤帯の玄関の施錠は、防犯目的で行なっているが、面会等来訪には、いつでも対応できる体制をとっている。 ・各居室の施錠は、中庭に池があるため（池に入水する可能性のある方等は）ご家族・主治医と検討し状況に応じ危険防止目的で行う事がある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	・毎年研修に参加し、施設内の伝達研修も行い新しい情報を共有している。 ・事業所内で職員に対して毎年、振り返りとしての虐待等のアンケートを実施し、結果について話し合いを行いご家族にお便りにてお知らせしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	・法人内で毎年研修に参加し、伝達研修を行なっている。 ・えんやではマニュアルの読み返しを各自行ない、分からないことがあれば、研修参加者に確認をするようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	・関わる職員は、尋ねやすい雰囲気作りやわかりやすい話し方を心がけ、不安や不明点がないように対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	・意見箱を設置し意見を書ける機会を作っている。また、面会時やサービス担当者会議時に直接伺うようにしている。頂いた意見は、カンファレンスを行い改善し、改善したことをお知らせ等で周知している。		

自己 評価	外部 評価	項 目(こもれば)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	・年2回個人面談を行い、それぞれの意見を聞く機会を作っている。また、カンファレンスやミーティング時に各職員の発言を促し、意見を出せる機会を作っている。意見があればその都度話し合いを行い改善に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	・年2回の個人面談を行い、各職員の思いやそれぞれが抱えている問題等を把握し、働きやすい職場の実現に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	・個々のスキルの把握に努め、研修への参加ができるようにしている。カンファレンスに積極的に参加し、ケアの必要性や意味について考える機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	・多職種連携の研修会や外部での研修に参加する機会を持つことができている。また地域密着型連絡会に参加し、情報交換を行ったり、他の施設見学が気軽に出来る様なネットワークづくりを行うことでサービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	・入居前には個別に担当が面談を行ない、顔を知っていただき不安を減らすようにしたり、ケアマネや関係機関からも聞き取りを実施している。 ・生活歴や本人の様子を知るためご自宅へ訪問させていただくこともある。入居後も今までの生活に似通った環境やかかわりが持てるように支援している。		

自己 評価	外部 評価	項 目(こもれば)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	・入居前から家族に施設を見てもらったり話が出来る時間を十分にとり、不安や要望を伺い準備を進めている。 ・担当職員を決めて積極的にコミュニケーションを図り、初期からの関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	・入居前の情報収集を細かく行い必要とされる支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	・職員は入居者と一緒に家事活動を行ったり、入居者同士が共に活動できるよう配慮し、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	・職員は、家族と本人がうまく関われるように本人の状態を伝えたり、認知症の理解や受け入れができるように助言や相談に応じている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	・買い物の際に顔見知りの方と話をさせていただいたり、地元の美容院や行きつけの場所、行事等に参加できるように送迎の支援をしている。		

自己 評価	外部 評価	項 目(こもれば)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	・ 個々の個性を把握し、一人ひとりのできる事を見つけ、その方に合った活動を実施している。入居者同士声を掛け合っておられ、雰囲気もよく行事にも全員参加されている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	・ 利用が終了された場合でもご家族からの相談に応じ、必要であれば関係機関との連携を図って支援を続けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・ 入居者、家族とカンファレンスを行い、思いや希望意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	・ 入居前や入居後自宅を訪問したり、本人、家族、関係者に聞き取りを実施しており、個人の特徴、性格、生活歴、嗜好等を把握し、なじみの暮らしに近づける様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	・ 24時間シートを活用し生活リズムを把握している。ケア方法が把握しやすいように個別ケアマニュアルを作成し、カンファレンスを行った際にケア内容に変更があればその都度修正し、現状の把握に努めている。		

自己 評価	外部 評価	項 目(こもれば)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	・ご本人がその人らしく生活でき、QOLの向上を図るため、ニーズについて本人、家族、関係者と話し合いを行い意向を反映している。毎月のモニタリングや必要に応じてカンファレンスを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	・入居者の日々の様子や変化、気付き等細かく個別ケア表に記録している。記録を確認、共有することで、ケアの統一や見直し（モニタリング）等に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	・本人や家族の状況に合わせて、本人や家族が安心されるような支援の方法をカンファレンスにて検討し、必要に応じて内容を報告、法人全体で支援する体制を整えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	・地域の資源を把握するとともに、行事等では地域のボランティアの方の協力を得ながら施設内でも地域の方と楽しく関わる機会を持てるようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	・月に2度の訪問診療があり、利用者の状態を主治医に報告、相談することができている。必要に応じて往診を受けたり、病院受診の支援を行っている。日頃から利用者の気になる事等あればFAXで相談し指示を受けられる体制をとっている。		

自己評価	外部評価	項 目(こもれば)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	24時間連絡がとれる体制を整えており、状態の変化や気づきなどを看護師に相談、早期に適切な医療が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報の提供はもとより、治療や早期退院に向けて情報交換や相談を行っている。病状説明等にも同席し、医療との関係づくりにも努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行うことを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	・終末期になられた利用者の場合、医療・介護・家族・本人で話し合いを持ち、また、状態の変化に応じて何度もカンファレンスを行ない、本人・ご家族の思いの確認を行なっている。 ・状況に応じて医師の指示を受けるなどし、法人全体でチームとして支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	・利用者の急変や事故対応に対して落ち着いて対応できるよう、また医療機関への連絡等も適確に出来るように研修への参加、マニュアル等の確認を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害時の対応に関する研修に参加し、職員間で共有、施設内での災害対策の振り返りを行っている。地域の消防団と連携し情報や指示を頂いたり、災害発生時には法人全体で協力して避難できる体制をとっている。		

自己評価	外部評価	項 目（ こもれび ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	・一人ひとりに適した対応を考え、プライバシーや尊厳に十分配慮した対応を行なっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	・その都度、入居者やご家族の思いや希望を確認しながら、希望に沿ったサービスが実現できるよう支援している。 ・日々の活動においても、本人が選択できるよう助言等行い、ご本人に決めていただくよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	・その方のペースで生活して頂いている。希望される活動、能力を発揮できる活動を提供し、楽しく活動していただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	・離床時、外出時などには髪を整え、また洗面後に化粧水や乳液等をつけるなど、それぞれの入居者の希望に沿って支援している。 ・洋服も自分で選択できる様たんす等の入れ方や記名をするなど配慮している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	・食事運び、盛り付け等入居者の方に手伝っていただいている。職員も一緒に食卓に着き会話をしながら食事をしている。食べたい献立等もお聞きし、作るように心がけている。		

自己評価	外部評価	項 目(こもれば)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	・その方の好みや量に合わせた食事を提供している。水分摂取量が少ない方には、好みの飲み物を提供したり飲水の時間以外にもこまめに提供するなど工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後は口腔ケアをしていただいている。義歯の方は必要に応じて仕上げ磨きをおこないポリデントに浸けている。残渣による誤嚥性肺炎の予防に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	・一人ひとりの排泄の習慣や特徴を把握し、その方に合わせた介助を行っている。出来る事は自分でして頂き自立できるよう支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	・本人の生活歴等から便秘の原因を理解し、飲み物の工夫や飲んで頂く量等の工夫を行なっている。また、個々の体調にあった運動（テレビ体操・歩行運動等）の働きかけを行なっている。必要時には医療との連携も図っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	・一人ひとりの希望やタイミングにあわせた入浴を行っている。入浴の方法はカンファレンスにて職員間で共有し、その方の状況に適した入浴介助ができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目(こもれば)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	・室内の気温、湿度、明るさ等に配慮し気持ちよく眠られるように支援している。その方の睡眠のリズムを把握し、眠れない状態が続く時にはその原因を考え対応するようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	・薬の目的や用法を理解し、日付の確認や確実に飲めたかの確認を行なっている。また服薬による状態の変化があれば医療に報告、連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	・一人ひとりが喜びのある日々を過ごされるように、生活歴や持っておられる力は何かを話し合い、その方の力を生かした役割等を作り、楽しめる活動や気分転換につなげている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	・毎月ユニットでの全員外出の日を作り、外出の機会が少ない方にも出かけていただけるよう支援している。天気の良い日は外気に触れていただけるよう、散歩、ドライブ、買い物等を活動に取り入れている。ご家族の協力を得て定期的にご家族との外出を楽しまれている方もおられる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	・職員は入居者がお金を持つ事の大切さを理解して、一人ひとりの希望に応じて使用できるように支援している。現金は事務所で預かり必要時に使えるようにしている。		

自己 評価	外部 評価	項 目(こもれば)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	郵便物や宅配便は本人に手渡し、職員と一緒に確認を行っている。ご本人が直接お礼の電話をかけたり、連絡をとることができる様支援し、家族や知人とのつながりが途切れないようにしている。電話が入った時には子機にてご本人に繋ぎ対応している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・共有の空間は清潔に気を付け温度、湿度調整も行っている。ホールから外の様子や畑が見えるので、今からの時期畑で何が採れるのか楽しみもあり、季節感を味わうことが出来ている。落ち着いて生活できるよう席の配置も配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	・共有空間の所々にソファやイスを配置し面会時などゆっくり過ごして頂いている。人の多いところが苦手な方には、別の机を用意し一人で過ごすこともできる様配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・入居時にはご家族とも相談しご本人が住みやすい部屋作りを心掛けています。小物や家具は使い慣れたものがあれば持参していただき、ご家族の写真を飾ったり、好みの絵をかけたりとその方に合わせて工夫を行ってる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	・居室にはご本人のお好きなのれんや表札を掛けている。家具の配置も伝い歩きができるようにしたり、服の出し入れが自分で出来る様記名したラベルを貼る等工夫している。ホワイトボードにその日の献立を入居者の方に記入していただき皆さんにもわかるようにしている。		

V アウトカム項目(ひだまり) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

V アウトカム項目(こもれば) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 ふれあいの家 えんや

作成日 2018, 11, 14

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	日々のケアが本人を主体としてチームでケアできているか振り返りが必要	全職員が法人の理念を理解し、チームでケアしていくことを意識して行動する。	理念やチームケアについて学ぶ機会を持つユニット（全職員を集めた）カンファレンスを開催し情報の共有、統一した目標をたてていく。	年度内に研修等学ぶ機会を持つ 2月までに初回カンファレンス実施し、以後継続していく
2	52	掃除が行き届いていない	清潔を保つということの意識を高め整理、整頓、清潔、清掃を定着させる。	掃除の意味合いや、環境を整えるということを職員全体で考え振り返る機会をもつ。月に1回掃除担当の職員を決め日常では行わない箇所の掃除を行う。	年内に振り返りを行い、研修等考える機会をもつ 掃除については年間通して継続する
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。